



杉山たかのり

 ニュース

市議会内 日本共産党市会議員団控室 Tel.0798-35-3368

自宅 西宮市津門仁辺町5-21 Tel・Fax0798-35-1682

団ホームページ <http://nishinomiya.jcp-giin.net/>

ブログ・ツイッター [杉山たかのり](#) フェイスブック [杉山孝教](#) で検索を

杉山たかのりの一般質問 その2

名神湾岸連絡線

住民の声無視して整備は許されない！

アンケート結果 ルート帯周辺では“有効”は49%

次に、名神湾岸連絡線について質問します。

1月23日、国土交通省社会資本整備審議会道路分会近畿地方小委員会が開催され、計画段階評価についての審議が行われました。小委員会では名神高速西宮インターチェンジと阪神高速湾岸線西宮浜ランプをつなぐ今津東線付近をルートとし、高架案と地下案の2ルートの比較がされ、国土交通省は、高架構造で整備をする計画案を示しました。

今回、計画段階評価での第2回アンケートの結果が示されましたが、「名神湾岸連絡線」そのものの整備が地域の交通課題に対して有効かどうかを問う設問がされています。(裏面下)「有効だと思う」「どちらかと言うと有効だと思う」が概ね7割～8割が回答と記述しています。道路利用者80%や芦屋や尼崎等の駅でのオープンハウスでは83%、沿道住民、周辺住民は69%、71%、そして今津でのオープンハウスは49%、つまり整備される近くほど、有効だという回答は少なくなっているということが明確になりました。

この名神湾岸連絡線の問題については、ルート帯周辺の環境悪化、大型公共事業のムダ遣いという点で、我が党議員団は、反対をしてきましたが、ルート帯周辺の住民の声を無視して、整備していくことはできないのではないのでしょうか。

質問

①有効が49%と、他と比べて低い回答だった、オープンハウス等ルート帯周辺でのアンケート調査の結果について市はどう評価をしていますか。

②2012年9月議会当時の伊東都市局長は「現段階では計画段階評価というのをやっておりませんので、先ほど申し上げた交通量とか、また、地域のデメリットでありますとか、特に環境面の問題というのは、まだそういうデータとか資料がそろっておりませんので、まず市としては、そういうことの計画段階評価を得たいということによっております。」

と答えています。計画段階評価で得られると言っていた、交通量、環境面の問題、地域のデメリットなどデータはどうなったのか。

③今回の近畿地方小委員会を前に自治体に対して意見照会が行われ、それに市長は「具体化に際しては、周辺の住環境や景観にたいする影響とその対策について十分なご配慮をお願いいたします。」と回答しています。影響、対策について具体的にどのような配慮を求めるつもりなのか。

当局の答弁の一部

アンケート結果を受けて、高架案が選ばれる見込みとなっているが、高架案であれば、交差する既存道路を分断することなく、また、浸水被害の際も高架道路の通行が可能であることから、市として、ルート帯周辺の住民等の意見に沿ったものと評価している。一方、ルート帯周辺では、当該道路整備を有効と考える回答が全体に比べて少なく、沿道環境への影響を懸念する意見も多いことから、計画の具体化に際しては、地域の理解と協力が得られるよう丁寧な説明を行い、環境への影響について十分に配慮するよう、引き続き、国に求める。

現段階で想定できる事項として、市街地を横切る長大な高架構造物ができると、地域の景観に与える影響はかなり大きいと考えられる。そのため、一定の具体案が示されましたら、東西地域の分断を最小限とし、構造物の圧迫感を和らげるなど、景観について配慮を求めるべき事項を検討してまいりたいと考えている。

“有効”が49%という周辺住民の声は全く評価せず、逆に国の立場で「理解と協力を得られるように」と出先機関のように説得を買って出る姿勢は異常と言えます。市が言う「長大な高架構造物」は出来てしまえば環境に配慮できません。

図4 地域の交通課題への対応策として、名神高速道路と阪神高速湾岸線を接続する道路(仮称)名神湾岸連絡線の整備が有効かと思われるか。

